

そよかぜ 会報

2018.01
No.59

発行/特定非営利活動法人
メンタルサポート野田そよかぜ
理事長/齊藤 登美生
〒278-0001 千葉県野田市目吹 2578-4
TEL 04-7125-3955
FAX 04-7128-5489
<http://nodasoyokaze.jimdo.com/>
E-mail: tsubasa@road.ocn.ne.jp

年頭のご挨拶

理事長 齊藤 登美生

明けましておめでとうございます。

輝かしい新春を迎え、皆様、希望を新たにされておられることと拝察致します。

さて、日本の経済・社会も、安定しているとは云え、国際関係におきましては緊張状態にありますことは諸賢のご承知のところでありませう。

こうした中にありましても、障がいを抱える方々への国の対応が、比較的手厚くなされておりますし、特に、野田市におきましては、「福祉のまちづくり」「心のバリアフリー」等のスローガンのもとに、安心して、安全で快適な生活を送ることの出来る環境作りがなされておりますことは、よろこばしい事でありませう。

当法人におきましても、社会ニーズに対応すべく、従来から行って参りました多機能型事業所と地域活動支援事業のスタッフの増強と各種研修会や講習会への派遣による、スタッフのレベルアップを図るとともに、児童への守備範囲が拡大された相談支援事業も担当スタッフの頑張りでも乗り切って参りました。

また、自立を目指す人々のグループホーム入居の要望が強いことから、「そよかぜハウス」A棟B棟に加え、C棟を開設するとともに、3棟に係る世話人態勢の強化・充実に努めて参りました。

そして、法人の事業も4つとなり、職員数も増加しましたため、事務局体制の強化充実を図り、一般事務、総務事務ならびに経理事務を的確に、かつ効率良く処理推進していく態勢をつくりました。

また、「中山馬主協会」からの助成金による利用者送迎車両「キャラバン」の購入、法人本館トイレの改修、「つばさ」作業中におけるBGM音楽の放送等良好な職場環境作りにも努めて参りました。

一方、昨年も当法人として、いろいろな行事を行うとともに、市や障団連等が開催する各種行事に参加して参りました。

その中で最近のものを挙げますと、10月6日(金)に「バスハイク」を実施し宇宙センターとエキスポセンターを見学し、37人参加のもと楽しく過ごしました。

また、12月16日(土)には、従来の「施設祭」と「クリスマス会」を統合した「そよかぜ祭」をメンバー・職員30人参加のもと賑やかに行いました。

ところで、今年は、4つの事業の更なる発展充実に努めるとともに、4つの事業はそれぞれ独立してはいますが、相互に連帯が必要でありますので、報告・連絡・相談を密に行っていただくよう留意していきたいと考えます。

そのため、日常業務の遂行の際も、事業間相互の連絡・報告を密にすることを徹底することを管理者およびスタッフをお願いしているところであります。

また、各事業の責任者による週1回の「連絡会議」で情報交換を行うことに加え、隔月で、利用者の支援をテーマとする「サポート会議」を開催することとし、主としてサービス管理者に集まっておいただき、情報交換をお願いすることと致しました。

以上申し述べましたことを含め、活性化され、明るく、働き易い法人作りに向けて、今年も、理事職員メンバー一丸となって邁進していくよう決意を新たにしているところであります。

本年も皆様の更なるご支援をお願いし、簡単ではありますが、年頭のご挨拶と致します。

障害者虐待防止・権利擁護研修

この研修に参加して感じた事は、虐待が有る事を知っていながら放置したり、隠したりしている場合がある事が考えられる。職場環境の問題として、上司に相談しにくい雰囲気。オープンな虐待防止対応を心掛け職員のモチベーションが大切。何が虐待なのか共有する事。グレーゾーンで通報していく事が虐待防止に繋がる。研修等を通じた職員の利用者に対する支援の質の向上と職員同士がお互い支え合い、指摘し合え、自由に意見が言える風通しの良い組織作り。虐待を隠さない。嘘をつかない誠実な施設。職員が職場で孤立したり、過度のストレスを抱えたりすることも虐待の要因である。職員の意識、啓発、研修を実施していく事が大切だと感じました。



(つばさサービス管理責任者 下川)

第六次千葉県障害者計画フォーラム

障がいある人と共に生きる共存社会

平成 29 年 12 月 27 日、市川市八幡市民会館全日警ホールにて、第六次障害者フォーラムが開催されました。千葉県障害者施策推進協議会会長石田氏より「障がいのある人と共に生きる共存社会」という題目で講演が始まりました。障がいがあるにかかわらず、皆が互いに人権や尊厳を大切にして支え合って生きる共存社会の重要性を 40 分に渡って講演された。

続いて千葉県健康福祉部障害者福祉推進課より「第六次千葉県障害者計画について」の説明が 40 分行われ、3障がいについて全国区から見た人数と割合、また県が目指す主要施策の方向性についての説明がありました。入所施設等から地域生活への移行の推進、精神障がいのある人の地域生活推進、障がいのある人への理解を広げ権利を擁護する取組みの推進、障がいのある子どもの療育支援体制の充実、障がいのある人の相談支援体制の充実、障がいのある人の一般就労の促進と福祉的就労の推進、障がいのある人一人ひとりに着目した支援の充実。以上7点について県の行政が今後実現すべき内容を説明されました。

最後に「第六次千葉県障害者計画の目指すもの」としてのシンポジウムが実施され、コーディネーター1名パネリスト5名で「県や市からの視点で捉えた障がい福祉について」、「障がいの子供を持った親としての考えが行政にむけて」の意見が交わされました。行政も様々な意見を真摯に受け止め今後に向けて障がいがある人達に対し共存社会の構築化がどう図れるかまた、実現化に向けての説明が多々行われました。

今回の研修で行政との連帯の必要性、障がいを持った方々との共に造る共生社会の大切さを学びました。この研修を生かし支援をもっと充実させていきたいと思えます。



(つばさ 尾池)



陶芸教室

すまいる

11月8日(水)にプログラムで上岡陶芸教室に行ってきました。

6人のメンバーさんが参加してくれました。初めての人が多く最初は手付きも恐る恐るでしたが、慣れてくると真剣さと楽しい空気の中作ることができました。

次はこんなの作りたい!とみんな想像を膨らませていました。機会があったらまた行きたいです。



(すまいる 高橋・長島)



クリスマス会

すまいる

12月22日(金)にプログラムでクリスマス会を行いました。

15人のメンバーさんが参加してくれました。ケーキや食べ物なども、どうするか事前にメンバーさんで話し合いをして、当日もケーキ作りやおにぎり作りなど手伝ってもらいました。司会や乾杯もメンバーさんが立候補しみんなで協力しました。

ドキドキのプレゼント交換も行い、今回も賑やかに過ごしました。



(すまいる 高橋・長島)





バリアフリーコンサート 法人

昨年12月7日(木)に野田市役所にてバリアフリーコンサートが開催されました。

当日に向けて約1カ月前から休憩時間を利用し練習を重ねました。

「翼をください」「365日の紙ひこうき」を大きな声で堂々と披露する事が出来ました。

その後、コーヒーやケーキを食べて皆、満足した様子で終了しました。

(つばさ 尾池)



初詣

つばさ
そよかぜハウス

1月3日(水)に櫻木神社に初詣に行って来ました。

当日は、風が強く寒かったのですが皆で参拝し、

帰りにサイゼリヤでケーキセットを頼んだつもりがアイスセットだったので笑いながら

冷たいアイスを食べ良い年初めになりました。

(つばさ 渡辺健二)





そよかぜ祭

法人

12月16日(土)にそよかぜ祭が開催されました。

アマチュアバンド「ウォルフ」の素敵な演奏から始まりました。

「なごり雪」「糸」など7曲の他にクリスマスソングもありみんな一緒に歌いながら楽しみました。

次に野田マジッククラブのマジックショー

何も入っていない所からたくさんの花が出てきたり齊藤理事長に縄をつけ両側からひっぱる縄抜けをしたりと驚きの連続でした。

お昼は、お弁当の他に毎年恒例のスタッフ特製けんちん汁を美味しく頂きました。

午後からは、こちらも恒例のビンゴゲーム

スタッフ対抗じゃんけん大会が行われました。

負けたスタッフは、一発芸をしなければならないので

スタッフにとっては最悪なゲームでしたが

一日中、笑いの絶えない楽しい時間を過ごしました。(事務局)



演奏や手品とてもよかったです。
ビンゴゲームやじゃんけん大会、楽しかったなあ
みんなで合唱したのもすごく良かったです。
(つばさ 佐々木)



意思決定支援について

そよかぜハウス

平成30年1月13日（土）野田市川間公民館にて社団法人スターアドバンス代表理事の遠藤紫乃氏による「意思決定支援について」の講演会がありました。

私たちは、障がいがあろうとなかろうと人生の大きな岐路に立ち意思決定の機会に直面する事は確かです。その時どう乗り越えていくかが重要となります。

経験を積み重ねることで意思決定の能力が育っていくことになり、私たち支援を行う立場にあるものの責務であると痛感しました。

そのためには、色々な選択肢を相談していきながら、本人が最終的には決定することであり、そのプロセスが重要であることを学びました。

そして、支援を行う支援者として責務として次の事があげられます。

- ①障がいのある方たち本人が可能な限り意思決定を行える環境を整える
- ②経験を積み重ねることで意思決定の能力を育てる

障がい者が、自分の人生のその時々目的に合った「選択肢」を自分で選び自分で選んだ行動に対して責任を持ち、その結果、より充実した社会生活を積極的に送れるようになると思います。

また、アセスメントとして、欲求や需要等を判断しなければいけないため、障がい者と支援者との共同作業となり、信頼関係がその基礎となることの重要性も再確認しました。

（そよかぜハウス管理者 谷口たつ子）

心の作品展

1月24日（水）～30日（火）

市役所1階 ふれあいギャラリーにて開催されました。

つばさより4名、すまいるでは3名の他にスマイル全体で作成したものを展覧しました。



行事予定

★バスハイク

3月23日（金）にバスハイクに行きます。詳細が決まりましたらお知らせ致します。